



学校だより

# ゆめは大きく

尾張旭市西の野町5丁目1番地 <https://www.owariasahi.ed.jp/asahi-e/>

尾張旭市立  
旭小学校  
第6号  
令和7年  
9月24日

TEL 0561-53-2035

## 「イジメ」と「イジリ」の境目

7月に尾張旭市内の小中学校でいじめアンケートを実施しています。その分析が9月に発表され、2学期の生徒指導に活かしていくという流れです。今年度の分析を見ると、「いじめをしてしまったことがある」という項目が「いじめられたことがある」という項目の半数程度でした。前向きな捉え方をすれば、加害側にも「いじめをしてしまった」ことを自覚・認識できている児童・生徒が半数程度はいると考えられますが、その一方、自覚できていない児童・生徒が半数程度はいることを示しています。その原因の1つに「イジリ」があります。先日、テレビで活躍している芸人さんが、こんなことを話していました。

「イジリは“笑いの共有”だけど、イジメは“笑いの独占”だと思っんです。」

この言葉は的を得ていると感じます。学校生活の中で、冗談やじゃれ合いが子どもたちの関係を深めることもあります。その一方で、心ない言葉や行為が相手を傷つけることもあります。この両者をしっかりと見分ける必要があります。

「イジリ」とは、相手を思いやり、相手が“おもしろい”と思える範囲で行うやりとりです。そこには笑いを共有する雰囲気があり、誰かが孤立することはありません。一方、「イジメ」は、相手の気持ちを無視して行われ、本人がつらいと感じてもやめないのです。笑いを取るために相手を犠牲にし、孤立や恐怖を生み出します。どんなに“冗談”と呼んでも、相手が苦しんでいれば、それはイジメです。

私たち教師は、日常の中で子どもたちの表情や声のトーンに耳を澄まし、イジリがイジメに変わるサインを見逃さないよう努めています。同時に、子どもたち一人ひとりにも「相手の気持ちを想像すること」「いやなときにははっきり伝えること」の大切さを教えています。大人と子どもが一緒になって、「これは冗談のつもりだけど大丈夫?」「今のは嫌だった」と確認し合える関係が、いじめ防止につながります。

学校は、みんなが安心して過ごせる場所です。だからこそ、「イジメ」を許さない文化を、子どもたちと共に築いていきたいと考えています。保護者の皆様にも、ぜひご家庭で「相手の立場に立つ」「嫌なことは嫌と言っていい」という会話を重ねていただければ幸いです。子どもたちが、自分と違う個性や立場を認め合うことができる学校を目指してまいります。

校長 岩下 徹

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ <お知らせ> ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

## ○ 保健室の利用について

2学期に入りインフルエンザや新型コロナウイルスに罹患する児童が目立ってきました。体調不良者には、保健室で1時間の休養後、それでも体調がすぐれない場合は、発熱に関係なく早退としております。急なお迎え依頼をせざる得ない場合がありますが、何卒ご理解・ご協力をお願いします。

